

## 平成 26 年度本省業務 報告

### 1 ナベヅル、マナヅルの新越冬地形成等専門家会合

#### (1)開催日時、場所

平成 26 年 6 月 19 日 14:00～17:00 出水市ツル博物館クレインパークいずみ

#### (2)目的等

新越冬地形成等の行動計画に必要な調査等について検討するために、委員として検討会の委員及び地元の調査関係者、オブザーバーとしてクレインパークいずみを参集。

#### (3)概要

##### ①平成 26 年度の調査等業務案について

計画の策定には、既存情報の整理や関係者間での徹底した議論が必要との意見があった。

##### ②行動計画項目案について

関係機関との連携について項目に追加すべきとの意見や、人為的移送の具体的な手法について意見が上がった。複数のプラン、シナリオ、ロードマップを作り、合意を得る必要があるとの意見があった。

##### ③出水でのツル類との共生を考えるワークショップ案について

計画策定のためのワークショップは時期尚早であるが、勉強会であれば、地元の意向を把握し、ネットワークを作るために必要という意見もあった。実施にあたり、ステークホルダーを分析する必要が指摘された。

##### ④ツル類受入マニュアル案について

地域振興や環境教育については資料編として載せるべき等の、項目や構成についての意見やマニュアルを機能させるためには、関係行政機関や NGO 等との連携など、具体的に動ける体制の整備も必要との意見が出た。

##### ⑤出水パンフレット案について(出水のツルに関する歴史や取組の紹介資料)

既存情報の整理か一般向けの普及ツールにすべきか等、活用目的、配布対象、構成についての意見が上がった。

##### ⑥捕獲調査について

目的や対象をはっきりさせる必要があること、過去に実施した際の方法や課題について意見があった。また、捕獲に対する負のイメージや、見物者等による阻害等の懸念があるので、広報の方法を検討すべきとの意見が上がった。

## 2 出水でのツル類との共生を考える勉強会「ツルと農業の新しい未来を一緒に考える会」の開催

### (1) 開催日時、場所

平成26年9月6日 13:30～17:30 出水市中央公民館

### (2) 目的等

出水の地元関係者のツルやツル保全に関する率直な意見を聞くため、市内の農業関係者を中心に参加を呼びかけ、野鳥と共生する農業についての事例紹介やツルとの共生に関して意見交換を行った。

### (3) プログラム概要

- ・環境省でのツル保全の取組について  
環境省野生生物課鳥獣保護業務室 根上 泰子
- ・講演1 「ツルたちの暮らしを知ろう」  
日本ツル・コウノトリネットワーク 金井裕
- ・講演2 「雁を利用したまちづくり—蕪栗沼・周辺水田（宮城県）での取り組み—」  
日本雁を保護する会 呉地 正行
- ・講演3 「ふゆみずたんぼの取組について」  
蕪栗グリーンファーム 斎藤肇
- ・講演4 「豊岡市とコウノトリの共生について」  
総合地球環境学研究所 菊地 直樹
- ・講演5 「コウノトリ育む農法を柱とした豊岡市の取組（事例紹介）」  
豊岡市役所コウノトリ共生部 農林水産課環境農業推進係 瀬崎 晃久
- ・講演6、7 「出水市でのツルと農業について」  
東干拓農家及びツル保護監視員 尾籠 政斗氏  
荒崎農家及びツル保護監視員 時吉 秀二
- ・意見交換、発表

### (4) 参加者

19名（東干拓農家10名、荒崎農家2名、干拓地以外の農家3名、その他4名）

※オブザーバー10名（出水市農政課、クレインパーク、鹿児島県、周南市、日本生態系協会）

### (3) 意見交換の結果概要

#### ①ツルが農地に渡来することについて

- ・いることが当たり前。
- ・いなくなればいいわけではないが、数も減らしてもよい。

- ・ツルの数は多すぎると思う。
- ・ツルよりも餌に誘引されるカモ類、カラスの被害のほうが深刻。
- ・ツルの数が増える前は農作物被害はなかった。ツルに土地を貸出してから、被害が出始めた。給餌によって数が増えすぎたことが原因だと思う。

#### ②出水以外にツルの新しい越冬地をつくることに関して

- ・良いことだと思う。鳥インフルエンザが出ると困るので、分散できれば良い。
- ・良いと思うが不可能と思う。周南に送っても出水に帰ってきてしまう。
- ・給餌を減らすと地域内に広がるのではないか。分散の過程をどう乗り切るか。

#### ③ツルの渡来を農業振興に生かすことについて

- ・取り組むべき。今も農業振興はやっている。
- ・東干拓で作った米を焼酎の米麴として出している。どうやってツルをタイアップして売り込むか。ツルを利用したい。
- ・どう取り組んでいけばいいのかイメージが湧きにくいので、このような勉強会がもっとあるとよい。
- ・付加価値の仕組みを作ったほうがよい。
- ・付加価値を付けた農作物の販売ルートの確保が大事。役所、JA、農家と一緒に考えて考える必要がある。
- ・出水は大型農業形態も多いのでその生産性に合わせて考える必要がある。
- ・米のブランド化とツルの分散は一緒のテーブルで話すことではないと思う。
- ・ツルの分散の費用を含めてコメの付加価値を付ければ同じテーブルで話し合いができると思う。

#### ④その他

- ・土地の借り上げが始まってから、環境省と今後5年ごとに話し合うという約束があったが、その後立ち消えてしまった。
- ・東干拓の給餌量は少なく、農業被害を出す可能性があるため、検討してほしい。農家はツルのために二番穂をできるだけ鋤きこまないようにしている。
- ・鹿児島県ツル保護会は部外者が入っていない。外部の人間も必要だと思う。
- ・昨年開催された出水市主催のツルシンポジウムの情報が市民（農家）まで届いていないので、もっと情報を流すべき。（広報等はあったが、関係者への個別の働きかけがなかった）

### 3 平成 26 年度ツル類の飛来状況調査

#### (1) 目的

新越冬地形成等に必要な情報を蓄積するため、出水地方以外の国内において確認されたナベヅル、マナヅルの飛来情報の収集を行なった。

#### (2) 調査方法

報道情報、自治体及び日本野鳥の会支部などの野鳥観察・保護団体を対象に、それぞれの地域で目撃された情報を収集した。渡り途中の一時的な立ち寄りについても含めた。

#### (3) 調査期間

2014 年 10 月 1 日～2015 年 3 月 17 日

#### (4) 結果

ナベヅル 64 件、マナヅル 54 件の情報が集まり、ナベヅルは 17 道県 39 か所、マナヅルは 10 県 23 か所の地域で飛来が確認された。詳細が不明の情報も含まれる。

一か所で連続 10 日間以上滞在した地域を表に示した。ナベヅルは合計 11 か所、マナヅルは合計 7 か所だった。(諫早干拓では継続した観察記録が得られなかったため連続の滞在は確認できなかったが、定期的に飛来が確認されたことと過去の実績により同様の扱いとした。)

このうち、越冬期の最盛期である 1 月に滞在が確認された情報については、出水以外で越冬した個体と言える。ナベヅルは合計 9 か所の地域で最大 82 羽が確認された。マナヅルは、今シーズンは出水において 1 月 20 日から北帰行が確認されたため、それ以前の情報を対象とすると、合計 7 か所で最大 66 羽だった。

表 ナベヅル及びマナヅルの滞在が連続10日間以上確認された地域

資料2-1

No.	都道府県	市町村	ツルの種類	合計数(うち成鳥、幼鳥)	観察期間	滞在日数	生息環境	脅威の要因
1	青森県	鶴田町、弘前市	ナベヅル	6(成鳥4幼鳥2)	2014/11/10-2014/11/24	15	水田	—
2	埼玉県	深谷市	ナベヅル	1(若鳥)	2014/12/13-2015/3/21(年末年始の数日間は除く)	99	水田、川	カメラマンの過度の接近には敏感だった。
3	石川県	加賀市、小松市	ナベヅル	6(成鳥4幼鳥2)	2014/12/26-2015/2/13	50	水田	カメラマンの追いかけにより落ち着いて採食できない
4	静岡県	掛川市	ナベヅル	1(幼鳥)	2015/1/23?-2015/2/14	23	水田	観察者
5	島根県	出雲市	ナベヅル	1(幼鳥)	2014/11/16-2015/2/21	98	刈田	観察・撮影者の接近
6	山口県	周南市	ナベヅル	6(成鳥、成鳥2幼鳥1、成鳥2)	2014/10/24-2015/3/17現在	135~145	水田	観察者、野犬等
	山口県	周南市	ナベヅル	3(成鳥2幼鳥1)、2(成鳥)	2015/3/4-2015/3/17現在	14	水田	同上
7	徳島県	海部郡海陽町	ナベヅル	最大12(成鳥2幼鳥1、成鳥2幼鳥2、若鳥5)	2014/12/2-2015/3/11	100	水田	—
8	愛媛県	大洲市	ナベヅル	1	2014/11/5-2014/11/14	10	水田	—
9	愛媛県	四国中央市	ナベヅル	5(成鳥2幼鳥1、亜成鳥1、成鳥1)	2014/11/8-2015/3/12現在	125	水田	—
10	長崎県	諫早市	ナベヅル	4~49	2014/11/8~1/31(観察は不連続)	最大85	水田、飼料用穀物の刈跡地	—
11	熊本県	玉名市	ナベヅル	2(成鳥2)	2014/12/05-2015/03/13	99	—	—
	熊本県	玉名市	ナベヅル	1(幼鳥)	2014/11/10-2014/12/30	51	—	—

越冬期の最盛期である1月に10日以上連続滞在が確認されたナベヅル

No.	都道府県	市町村	ツルの種類	合計数(うち成鳥、幼鳥)	観察期間	滞在日数	生息環境	脅威の要因
1	兵庫県	加古郡稲美町	マナヅル	1(成鳥)	2014/12/10-2015/3/12現在	93	水田、溜池(休息)	人が近づけば場所を移動する。あまり用心深くはなさそう。
2	山口県	山陽小野田市	マナヅル	2(成鳥)	2014/12/6-2015/2/15	72日	水田	観察者の接近により飛び去りがある
3	佐賀県	伊万里市	マナヅル	7(成鳥2幼鳥1、成鳥2幼鳥2)	2014/11/4-2015/2/3	48~92	水田	通行人、散歩の犬
4	長崎県	諫早市	マナヅル	3~16	2014/11/8-2015/1/31	最大85	水田、飼料用穀物の刈跡地	—
	長崎県	諫早市	マナヅル	37羽(成鳥27幼鳥10)	2015/1/31	1	水田、畑地	—
5	熊本県	玉名市	マナヅル	最大37	2014/11/9-2015/2/20	19~98	水田	ねぐら周辺でしばしばカモ猫。ねぐらが年々土砂で埋まり水辺がほとんど無い
6	熊本県	天草市	マナヅル	2(成鳥2)	2014/12/1-2015/2/10	72	水田	ラジコンヘリの飛行、田起しにより二番穂が少ない年がある
7	大分県	宇佐市	マナヅル	1(成鳥)	2014/12/15-2015/2/20	68	水田	イタチ・キツネ・ノラ犬など。観察者の接近など

越冬期の最盛期である1月1日~20日に10日以上連続滞在が確認されたマナヅル